

## 集会宣言(案)

長い歴史の中で、差別されてきた被差別部落の民衆が、自らの尊厳を高らかにうたいあげた「全国水平社」創立大会から、昨年は100年の節目を終え、今年あらたに、101年の歩みを踏み出しました。

水平社宣言の理念の特徴は、憐れみや同情によって差別は解消されるものではなく、差別の痛みを知っているマイノリティ自らが「人間を尊敬する」ことによって自らを解放しようとする集団運動を呼びかけた点にあります。さらに自分たちだけの解放ではなく、全ての人たちにとって「人の世の熱と光」が降り注ぐように願う、普遍的な希求でした。その熱い思いは、いつも私たちを奮い立たせ、励まし続けてきたのです。

しかし一方で、私たちの世界はいまだに戦争や紛争が絶えることはなく、国や地域間の格差、また同じ国であっても人々間の格差は広がり、飢えや貧困に苦しむ多くの人々が存在します。人間を尊敬するどころか、人格や生命さえも踏みにじる悪質な差別も横行しています。

グローバルに進展する経済状況に加え、急速に普及したインターネットからの情報から、世界を見渡すことが可能となった私たちは、圧倒されるほどに大きな課題に立ちすくみそうにもなります。しかし社会を変え、つくっていくのは、やはり一人一人の人間であり、多くの人々の意思の表明です。それこそが民主主義の基盤なのです。その個人としての意見を持つために、必要なのが教育であり、一生涯のどの時期からでも、どの場所からでも始めることのできる「学び」なのです。

水平社100年記念事業として、映画『破戒』が製作されました。自らの出自を明かしてはならないとする父の戒めを破り、ありのままの自分として、未来へ踏み出していくという主人公もまた、教育に携わる人間として描かれていました。

一人一人が真摯に生きる姿勢を信じつつ、私たちは、共生・協働の社会創造に向け、これからも歩みを続けていきます。

2023年2月25日

第54回人権交流京都市研究集会 参加者一同